
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2016年No. 6 (2016. 11)

- ・ 秩父宮賜杯第 48 回全日本大学駅伝対校選手権大会
5 時間 41 分 47 秒で総合 23 位
- ・ 第 34 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
東北学連選抜チームとして宮間 (4) が出場
- ・ 第 28 回出雲全日本大学選抜駅伝競走
東北学連選抜として高橋(M1)、本間(4)、笠間(2)が
出場
- ・ 第 71 回国民体育大会
宮崎(4)が成年男子 100m で 4 位入賞！

・ 第 28 回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2 ～ 3 ページ
・ 第 34 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	3 ～ 4 ページ
・ 秩父宮賜杯第 48 回全日本大学駅伝対校選手権大会	4 ～ 9 ページ
・ 第 71 回国民体育大会	1 0 ページ
・ 第 45 回東北学生陸上競技選手権大会	1 1 ページ
・ 秋保マラソン	1 2 ページ
・ 自己ベスト更新者	1 2 ページ
・ 今後の予定	1 2 ページ
・ 編集後記	1 2 ページ

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第 48 回全日本大学駅伝対校選手権大会の結果を中心に、各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎第 28 回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10/10)・・・出雲大社～出雲ドーム(島根)

今年の出雲駅伝は地方学連選抜を含む 21 チームにより争われました。東北大学からは、田中(M2)、高橋(M1)、本間(4)、笠間(2)の 4 人が東北学連選抜として選ばれ、当日は高橋、本間、笠間が出場しました。選手のコメントを掲載します。

第 2 区 笠間 淳平 (2)

この度、東北学連選抜として出雲駅伝の 2 区を走らせていただきました。トラックシーズンが不調のまま終わってしまい不安もある中でしたが、夏場の走り込みが功を奏してか、本大会でも悪くないレース内容で襷をつなぐことができました。当日は直線コースで強い向かい風というコンディションの悪い中でのレースでした。5.8km という短い距離であるとは言え、常に向かい風の中走らなければならないうえ、周囲の選手のほとんどは自分よりも格上という恐怖感がある中、3 区の本間さんに少しでも良い位置で襷をつながなければ、という思いで走り切ることができました。また強い風の中、5km 近く引張った後に、自分よりも持ちタイムのよい選手にスパートで競り勝つことができたことは大きな自信になりました。

出雲駅伝という、数少ない全国の舞台に立つことができた経験を生かして、全日本大学駅伝でも好走をすることができるよう頑張っていきたいと思います。たくさんの方の応援、ご声援、ありがとうございました。

第 3 区 本間 涼介(4)

この度、東北学連選抜チームの一員として出雲駅伝に参加させていただき、4 区を走りました。今年はシーズンを通して見ても、昨年よりも更に安定してレースで結果を残せていたため、不安はありませんでした。また、これまで多くの全国大会を経験しており、どんな状況の中でも自分の強みである冷静さを保って力を出せる自信がありました。

チームの目標としては、他の選抜チームに勝つことだったため、個人的な目標としては選抜チームの中で区間 1 位を目標に走りました。

結果としては、各チームが準エースを配置していることもあり、下から 2 番目の区間順位でしたが、自分の実力は出し切れたと自負しています。

私は今回で出雲駅伝を走れる機会が最後でしたが、関東や関西の大学との実力差は依然として大きいのが実情です。今回 6 区間中 3 区間を走った私たち東北大学の部員が力をつけることが、東北地区全体のレベルアップにつながるのではないかと思います。

最後になりましたが、多くの方の応援ありがとうございました。

第 6 区 高橋 佳希(M1)

10 月 10 日に行われた出雲駅伝に 4 回目の東北学連選抜の一員として出場しました。今

春、大学院に進学し(気持ちの上では)フレッシュマンとして気持ちを新たにシーズンを迎えました。故障等の影響もあり、何とか選抜メンバーに滑り込んだ形となりました。しかし、夏の練習や全日本大学駅伝の予選会などを経て調子は徐々に上がっており、また院生として学部生の出場の機会を奪っている以上、経験を活かし、結果を残すと同時に、他大学の選手を含め後輩たちに何かを伝えられる走りをしようという目標を立てて望みました。

当日は昨年に続き 6 区(10.2km)を任されました。結果は 32'08"と昨年より 4 秒ほど遅いものの、終始前も後ろも見えない単独走であり、やや強い向かい風の影響も受けたことを考慮すれば納得のできる結果でした。また、区間 14 位と区間順位は今までの中で最もよい結果でした。しかしながら、チームの順位は下から 2 番目と昨年より落ちる結果となりました。自身は練習内容や生活の見直し、さらには大会そのものや、コースを熟知しているなど経験を活かして、昨年以上の結果を残すことが出来ました。しかし、東北地区全体のレベルアップのためには自身の競技力向上を目指すだけでなく、後輩達に自分の経験を伝えていくことも重要であると実感しました。

来月は日本大学駅伝が控えています。昨年は自分の走りがまったく出来なかった悔しさがあるので、その悔しさを晴らし、チームの目標である東北大記録の更新に貢献できるようにしっかりと調整を進めていきたいと思えます。引き続き応援のほうよろしくお願ひします。

◎第 34 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(10/30)・仙台市

東北学連選抜として宮間(M1)、梶山(5)が選ばれ、当日は宮間が 1 区を快走しました。出場選手からのコメントを紹介します。

第 1 区 宮間 志帆(M1)

10 月 30 日に仙台市内で行われた全日本大学女子駅伝において、東北学連選抜として 1 区(6.4 km)を走らせていただきました。本大会には 1,2 年生の時に出場させていただいたため、3 回目の出場でした。今回は最後まで襷を繋ぐこと、昨年度の東北学連選抜チームよりも好記録で、一つでも上の順位を狙うことをチーム目標としていました。個人結果としては区間記録 22'50 で 25 位、チームとしては 1 時間 20 分 04 秒で 25 位相当と、目標は達成出来ませんでした。今大会はチームの主将として良い流れを作りたいという思いから 1 区を志願しました。周りが強い選手しかいないことは分かっていたので、物おじせずに粘ろうと思いましたが、最初の 1 km が 3'14/km であり、先頭は加速する一方だったため、集団から落ちてしまいました。前を走る選手と競りあって一時は順位を上げましたが、最終的にはスパートが不発で不甲斐ない走りとなってしまいました。タイムは実力通りであり、力不足が露呈されてしまいました。しかし各大学のエース級が集まる 1 区で走れた経験は今後に生かしたいと思えます。



▲東北学連選抜の宮間(下段左から 2 人目)と梶山(下段右端)

一昨年と昨年は故障もあって練習が積めず、東北学連選抜に選出されなかったため、運営のアルバイトをして大会に参与していました。その際にこんなにも沢山の方々が本大会のために支えてくださっていたことを実感しただけでなく、来年こそは選手として大会に戻りたいという思いが強くなりました。今大会では選手として出場できるありがたみを感じながら、沿道の応援や運営に支えられて走ることができ、感無量でした。最後になりますが、大会を運営して下さった学生陸上競技連盟、アルバイト、補助員や、沿道およびテレビで応援して下さった部員、OB・OGの皆様をはじめとする多くの方々に心より感謝申し上げます。

◎秩父宮賜盃第 48 回全日本大学駅伝対校選手権大会(11/6)

・熱田神宮(愛知)～伊勢神宮 (三重)

東北大学は 9 月 12 日に行われた東北地区予選を通過し、4 年連続 11 回目の本大会出場となりました。チームの目標であった東北大学記録の更新には惜しくも 27 秒届きませんでした。新潟大学と北海道教育大学には勝利し、他の地方国公立大学に勝つという目標は達成しました。出場した選手のコメントを掲載します。

第 1 区 本間 涼介(4)

今回 1 区を走らせていただきました。

私は今回で 4 回目の出場かつラストイヤーということで、チームを牽引する走りをしようと意気込んでいました。そしてチームの目標である東北大記録の更新を目指すべく、いい流れをもたらせる走りがしたいと思い本番に臨みました。

レースは序盤落ち着いたペースで入り、2km 手前まで先頭集団につくことができました。しかし、苦手とする下り坂で急激に集団のペースが上がり、離れてしまいました。

しかし、そこから自身の強みである冷静な走りができたため、終盤までペースを落とさず走りきることができました。

1 区は以前から走ることを希望しており、自分では力を出し切れたと考えているため、非常に楽しい経験をさせていただきました。

最後になりましたが、応援やご支援ありがとうございました。私は引退となりますが、引き続き応援よろしくお願い致します。



▲本間のスタート

第 2 区 笠間 淳平 (2)

昨年に引き続き、選手として走らせていただきました。応援、サポートをして下さってチームメイト、OB・OGの方々には心から感謝しています。

今年度は、二度目の伊勢路ということで、春先から意気込んでいました。しかし、トラックシーズン中は不調が続き、チームメイトを不安にさせてしまいました。夏の走り込みが功を奏してか、秋は昨年以上の好調を維持することができ、何とか、全日本大学駅伝に間に合うことができました。励ましてくれたチームメイトには、感謝してもしきれないほど、力をいただきました。本当に感謝しています。

レース中にはたくさんの応援の方が駆けつけてくださり、本当に力になりました。区間最下位という結果には終わってしまいましたが、苦しい中頑張れたのはそのような方々のおかげです。本当にありがとうございました。

全体の結果としては部内歴代二位のタイムでゴールはしたものの、目標は部記録の更新です。自分があと数秒粘っていれば、もしかしたら… 一秒、二秒の粘り、頑張りが、そのもしかしたらを実現していたかもしれないと思うと、今でもやるせない思いです。しかし、今回の大会で、遠かった部記録に大きく近づいたことも、収穫の一つでした。来年こそは、全国の舞台でも堂々と、一秒、二秒を粘り抜けるような力強さを身に着けてレースに臨みたいと思います。

応援、サポートをしてくださった先輩、同輩、後輩、OB・OGの方々、本当にありがとうございました。



▲2区を駆ける笠間

第3区 松浦 崇之 (1) |

今回全日本大学駅伝の3区(9.5km)を走らせて頂いた1年の松浦崇之です。

結果から申し上げますと、30'08秒の区間21位(OP参加を除く)でした。今、自分が持っている最大限の力を発揮した結果で、タイムは自分としては満足がいくものでした。しかし、4区の出口さんには約13秒間に合わず襷を繋ぐことが出来ませんでした。チームとしては、襷を繋ぐことを意識しすぎるとオーパペース気味になり潰れる可能性があるのも、あまり襷のことは気にし過ぎないという方針がありました。しかし、ラストイヤーの出口さんに何としても襷を渡したいという思いは自分が立てた目標の中で一番高かったものです。その目標が達成できない、しかも自分から見るところでの繰り上げスタート、本当に悔しかったです。この悔しさを生かすも殺すも自分次第です。必ずこの悔しさを自分の成長の糧として、これからの陸上人生を歩んでいきます。



▲粘りを見せる松浦

ここからチームとしての話になりますが、今年の全日本大学駅伝の最大の目標は部記録(5時間41分20秒)の更新でした。結果は27秒届かず5時間41分47秒でした。1区間あたり3.4秒と考えると悔しい部分があります。しかし、部記録まであと27秒のところまで来ているということでもあります。今年、全日を走ったメンバー8人中6人が来年もチームに残ります。また、8人の選手以外にも8人の実力に引けを取らない実力を持った選手もたくさんいます。来年こそは必ず部記録を更新できるようチーム一丸となって練習に励んでいきます。今年、今まで4年間長距離パートを支えてきた本間さん、出口さんが卒業します。その抜けた穴というのは計り知れません。その抜けた穴を補うのは部に残る僕たちの役目なので、僕自身精神的にも競技力的にも長距離パートを支えられるような存在になれるよう成長していきます。

最後になりますが、遠くからの応援、および色々な面での支援をしてくださったOB,OG,

部員の皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。

第4区 出口 武志(4)

全日本大学駅伝で4区14kmを走らせていただきました4年の出口武志です。

今年は6月に5000mの人生ワーストタイムを2回も更新することから始まったシーズンでした。一時は全日で走ること自体が目標になっていた時もありましたが後輩の突き上げもあり、なんとか9月の予選会では15kmの部で走れるまで体を戻すことができました。全日の本戦では調子が上がらない中ではありましたが3番目に長い区間である4区を任せていただき、最終学年として悔いの残らない走りをしてチームに貢献したいと考えていました。しかしレースは中間点前には息が切れて余裕のない走りになり、一緒に繰り上げスタートした他の3校にも離されるといふ苦しい展開になってしまいました。結果は区間最下位で目標としていた設定タイムにも届きませんでした。前半から苦しい展開のなか大崩れすることは避けられたため最低限の仕事は果たせたかなと思います。



▲安定した走りの出口

4年間チームを見てきましたが今年は特に層が厚く、また後輩が育ってきたように感じているので頼りになる先輩や同期、後輩が来年はもっと強いチームの姿を見せてくれることを期待しています。そんな成長するチームの中で競技を続け、最後に全日という大舞台上で走ることができたことは非常に幸せなことですし、こうした貴重な経験をできたのは陸上部員やOB・OGの方々をはじめとした周囲の皆様への支えや応援があったからこそだと感じています。本当にありがとうございました。

第5区 酒井 洋輔(2)

全日本大学駅伝の5区を走らせて頂きました、2年の酒井と申します。私は今回が初めての全日本大学駅伝です。その大舞台上に臨むに当たって私は2つの目標を立てました。1つは、絶対に大きく崩れないようにレースを進めること。またもう1つは、5区の東北大学区間記録を更新することです。私は調子の波が大きく、その為に今シーズンの前半のレースでは失敗続きでした。全日本大学駅伝は、多くの長距離部員が走ることを夢見る大舞台です。多くの先輩、同輩、後輩の思いを背負って走る訳ですから、絶対に失敗はできません。ですから、最初の1~3kmは慎重に入ることになりました。その結果、終盤ペースを落とすことなく、無事に走り終えることはできました。しかし序盤、自分よりも格上のタイムを持つ選手には離され、自分1人で新潟大、北海道教育大を引っ張るといふ苦しい展開となり、タイムもあと一步、東北大学区間記録に及びませんでした。序盤、あの選手について行っていたらより良いタイムで走れたかもしれない、と悔しい気持ちでいっぱいです。



▲新潟大を追う酒井

今年は小さくまとまったレースをしてしまったという印象です。来年こそは、自分の力よ

りも早いペースで入っても大崩れしない実力を身につけます。そして同じ舞台で、多少無茶な、大きなレースもできるようになりたいと思います。

最後になりますが、遠方から応援に来て下さった OB、OG の方々、陸上部員の方々に深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

第6区 南雲 信之介 (5)

「なぜ自分はあちら側にいないのだろうか。」昨年の全日本後に走り終わった選手が話すのを見て思ったことです。本当に悔しかったですし何度も泣きました。OB の田辺さんやコーチの健二さんの言葉のおかげで立ち直り、悔しさを晴らすべく今年は競技に取り組みました。その甲斐あって今年、自分は6区を走らせていただくことになりました。

宿にいたころは何も緊張はなかったのに、中継所についてからものすごい緊張感に襲われました。その中でもサポートの根津くんや関くんをはじめ、中継所に来てくださった OB の尾形さん、木村さん、菅野さん、また、大阪大の友人も会いに来てくださり、ここまで来たらやるしかない、との思いで中継所に向かいコールを待ちました。

5区の酒井洋輔くんから繰り上げの襷を受け取るとき、本当に感動しました。全日本の舞台で、繰り上げの襷とはいえつながった襷、重くかみしめながらスタートしました。最初は少し速めに入ったものの、意識的にペースを落ち着かせることができたため舞い上がってつぶれる、といった展開は回避でき、遙か前方と遙か後方に選手がいる中で淡々と一人で走っていました。受ける風も強く、くじけかけたこともありましたが、沿道からの声援、時には下の名前で応援してくださる方もいて本当にうれしく思いました。走っている間、本当に嬉しく楽しく、あっという間に終えてしまったという感じでした。

記録面のターゲットとしては 2004 年の奥津さんの持つ区間記録 39 分 20 秒の更新を狙っていましたがわずかに及ばず 39 分 29 秒に終わりました。また、全体でも 5 時間 41 分 47 秒と 27 秒及ばず、自分がもし区間記録を更新できていれば、という気持ちになりました。

しかし、ずっと破られていなかった偉大な部記録にあと一步まで迫ることができたというのはチームとしても自信になったと思います。来年は私としても最後の年です。必ずや来年の伊勢路で部記録を更新し、部記録選手として名を残したいと思います。

ここまで来たのは多くの人々の支えがあったからこそ、ということを実感した大会でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。応援ありがとうございました。来年もまた伊勢路で元気な走りを見せ、部記録を更新したいと思いますので引き続き応援の程よろしく願いいたします。

第7区 齋藤 寛俊(D1)

今回は大学としては 4 年連続の全日本大学駅伝出場でした。これまでの 3 年間は年々タイムを短縮してきたもののチームの目標である部記録更新には届かない結果に終わっていました。



▲6区を力走する南雲

特に昨年は長い間共に練習してきた同期と一緒に部記録更新を達成したいという思いで自分も選手として走りましたが目標を達成することはできず、残念な気持ちと部記録更新の難しさを感じる結果となりました。しかし昨年の段階では卒業する選手以外にもまだ力のある部員が多数おり、また複数の主力選手が次年度にラストイヤーを迎えるタイミングであったことから、次こそは部記録更新を達成できるようにとこの1年間練習に取り組んできました。

この1年は研究等で忙しく練習時間を確保するのに苦労する時期も多々ありましたが、生活や体のケアを見直して怪我に気をつけるとともに出来る範囲で地道に練習を積み重ねてきた結果、怪我の多かった例年よりも順調に調子を上げ、全盛期に迫る良い状態で試合を迎えることができました。また、チームとしてもここ1～2年は世代交代が大きく進みましたがそれ以上に特に若い世代の底上げが進み、部記録更新に大きな期待が持てるレベルに成長しました。そのため何としても部記録更新に貢献できる走りをしようとする限りの調整をして大会に臨みました。

当日は今年の練習の成果と自分の持ち味である冷静さ、集中力を発揮することができ、追い風という好条件もあって10000mの自己ベストと同等のペースで走りきることができました。また、チームとしても初出場の選手も多い中で皆失敗することなくしっかりと走りきってくれ、昨年より総合タイムを大きく短縮することができました。部記録にはわずかに及ばず非常に残念ではありましたが、チームとして成長の感じられる良い結果だったのではないかと思います。

今のチームには今回の選手以外にも力のある部員が多数いますし、全体としてまだまだ伸びていきそうな勢いが感じられます。来年はさらにレベルアップしてこの大会に臨めるのではないかと考えています。私も今後どこまでやっていけるか正直不透明なところではありますが、今後のチームに貢献できる存在になれるよう努めていきたいと思っています。

この度はご支援、ご声援本当にありがとうございました。

第8区 高橋 佳希(M1) |

11月6日に行われた全日本大学駅伝の8区を走らせていただきました高橋です。昨年、この大会で失速してしまい、チームにまったく貢献できず悔しい思いをしましたので、今年こそはリベンジすることを誓いました。

しかしながら、気持ちだけが空回りしたのか、その後もなかなか結果は残せず、ついには春先に故障してしまいシーズン初戦はここ数年で一番悪いタイムとなってしまいました。そこからは、とにかく立て直そうと練習内容を一から見直し、生活習慣の改善に努め、予選会や出雲駅伝などの試合を通して徐々に状態を上げていき、去年よりも手ごたえをもって本戦を迎えることが出来ました。

当日は繰り上げスタートとなり、繰り上げチームの中でトップを狙



▲7区を快走する齋藤



▲アンカーを務めた高橋

っておりましたが、数校が集団で飛び出る形となり序盤から単独走になりました。なかなか差が詰まらず焦りましたが、中間点あたりから遅れてくる大学を抜かしていき、16キロ付近で繰り上げトップの大阪経済大学に追いつき一騎打ちとなりました。惜しくもラストで突き放されてしまい繰り上げ内2位でゴールとなってしまいました。62'11"というタイムは一昨年の自己記録から1分以上速く、区間順位の18位も過去最高でした。チーム全体としての目標に届かなかつたり、個人でも細かい部分では反省が残る結果となりましたが、現状の自身の力は概ね発揮することができました。来年はいよいよラストイヤーとなりますが、まずはしっかりと予選会を通過し、「五度目のアンカーとして出場し、最も長く伊勢路を走る。」ことと「さらにタイムを短縮させて、チーム記録に貢献する。」ことを目標にして、練習に励んでいきたいと思えます。

最後になりますが、試走や当日の応援、金銭面などでの支援をしてくださったOB・OGの方々に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。

<酒井 PC による今大会のまとめ>

今年の全日本大学駅伝では、「東北大学部記録(5時間41分20秒)の更新」と「他の地方国公立大学に勝つ」という2つの目標を掲げ、大会へ臨みました。1・2区は本校のエース格である本間、笠間が出走しました。やはり前半の流れを決める主要区間であるため地方の大学でも力のある選手が走っており、2人とも決して悪いタイムではありませんでしたが2区を終えた時点では最下位でした。しかし、後半区間になるにつれ、徐々に前へ追いついていき、新潟大学と北海道教育大学を大きく引き離しました。最終的には、5時間41分47秒23位(OP含まず)でフィニッシュし、残念ながら部記録まで一歩及びみせましたが、昨年より4分ほど短縮し東北大歴代2位の記録を収めることができました。また、他の地方国公立大には7分以上の大差をつけ圧勝し、1つの目標は達成することができました。各個人を見てみると、7区の齊藤と8区の高橋が東北大学区間部記録を更新するという大変すばらしい結果を残しました。

本大会を通して振り返ってみると、前半区間で何とか持ちこたえ、後半区間で巻き返したという印象でした。本校の持ち味は突出した力を持つ選手はいないけれども、チーム全体としてみるとそれなりの実力を発揮できることだと思えます。ただ、どうしても前半区間はどこの大学でもエースを投入してくるため遅れを取ってしまいます。来年以降、さらに上位を目指すためにはトップ層の更なる育成ということが必要不可欠だと実感しました。来年も新PC上條のもと、チーム全体の底上げを図り、皆様の前で東北大学の名に恥じない結果をお見せできるよう日々精進して参ります。

最後になりますが、これまで応援・ご支援してくださりましたOB・OGの皆様、ありがとうございました。



▲酒井・前PC(右)から
上條・新PC(左)への樽渡し

◎第 71 回国民体育大会(10/7～11)・北上運動総合公園北上陸上競技場(岩手)

北上市で行われた国体で、成年 100m に宮崎(4)が出場し、4 位入賞を果たしました。リザルトと選手の感想を紹介します。

成年男子 100m

・宮崎 幸辰(4)	予選	5 組 2 着	10"53(+0.1)
	準決勝	1 組 3 着	10"50(+0.5)
	決勝	4 着	10"41(+0.8)

国体出場記 ～イザナミによるアイデンティティー論～

10 月 7～11 日に開催されました希望郷いわて国体に岩手県代表として成年男子 100 m に出場いたしました。10"41 で 4 位という結果に終わりまして、日本インカレに引き続き、入賞を果たすことができました。

今大会ではスタートが予選からうまくはならず、さらに低温というコンディションも重なって苦しい戦いを強いられました。決勝は中盤から後半だけに集中する戦い方に変更したお陰で、インカレよりも順位を大幅に上げることができました。調子が芳しくなくても、ラウンドに進み、勝負に絡むことができたことから実力が付いてきたと思えました。来季までには、体の強化や技術の定着を十分に行い、今年以上の成績を出せるよう精進いたします。

この地元国体に出場するにあたり、競技生活 10 年間の集大成とこれまで関わってきた方々への恩返しとして走りました。他の人よりは少ないにしても、多くの人々に認められて強くなったということが実感できた大会となりました。

最後に、この度も多くの方々から声援をいただきました。とても力になり、嬉しかったです。この場をお借りしまして、感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

“ 己自信を認めてやることのできない奴は失敗する ” —うちはイタチ

宮崎君の活躍は、今回も、東北大学の WEB サイトにも掲載されました。

「第 71 回国民体育大会（希望郷いわて国体）で学友会陸上競技部の宮崎幸辰さんが成年男子 100m で 4 位に入賞しました」

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2016/10/news20161013-01.html>

◎第 45 回東北学生陸上競技選手権大会(10/21～23)・仙台市陸上競技場

強風が吹く難しいコンディションながら、東北大学各選手健闘を見せました。各種目 8 位以上の選手の結果を掲載します。

男子 800m 決勝	3 着	川口 航汰(2)	1:57.39
男子 5000m 決勝	1 着	高橋 佳希(M1)	31:15.14
	7 着	堀 拓磨(1)	32:29.60
男子 110mH決勝(-0.5)	6 着	本間 大輔(M2)	15.64
	8 着	羽根田佑真(1)	16.37
男子 10000mW決勝	4 着	佐々木亮太(1)	53:10.15
男子 3000m S C 決勝	7 着	草島 立太(2)	10:08.43
	8 着	嶋田 拓郎(1)	10:10.37
男子 4 × 1 0 0 m R 決勝	6 着	東北大学 A・宮城	42.87
		高橋 拓実(4) 藤井 佳祐(3) 今泉 裕真(2) 山下 一也(2)	
男子棒高跳決勝	2 等	高橋 拓実(4)	4m70
男子走高跳決勝	6 等	山下 一也(2)	1m90
男子砲丸投決勝	6 等	佐原 拓郎(M2)	9m87
男子円盤投決勝	8 等	佐藤 雄也(4)	27m86
男子十種競技	5 等	佐藤 弘隆(4)	5372 点
		11.89(-0.9)-6m05(-0.5)-8m17-1m80-52.92 16.55(+2.0)-23m98-3m00-37m22-4:47.25	
	6 等	岡部 大輝(M2)	5356 点
		12.09(-0.9)-6m88(+1.7)-9m75-1m95-55.73 16.47(+0.7)-23m13-3m10-38m31-5:45.08	
	8 等	工藤 航平(4)	4801 点
		12.71(-0.9)-5m91(+1.0)-9m06-1m55-55.72 19.03(+0.7)-27m75-3m50-44m90-5:21.00	
女子 100m 決勝	1 着	佐貫 有彩(1)	58.94
女子 10000mW決勝	3 着	白井 花(2)	56:18.49
女子 4 × 100m R 決勝	3 着	東北大学 A・宮城	50.75
		門脇 郁(1) 佐貫 有彩(1) 吉村 梢(3) 佐々木千肅(2)	
女子砲丸投決勝	7 等	渡邊 朝美(4)	10m09(+1.4)
女子円盤投決勝	5 等	青木 千景(4)	27m19
	7 等	吉田 歩(4)	18m12
女子やり投決勝	6 等	渡邊 朝美(4)	28m60
	7 等	吉田 歩(4)	24m05

◎秋保マラソン(11/12)

秋晴れの暖かい気候の中で、秋保マラソンが開催されました。各部門の優勝者と参加されたOB・OGを紹介します。

- | | | | | | |
|----------|----------|--------|---------|-----------|---------|
| ・18km 優勝 | 堀 拓磨(1) | 58'45" | ・投擲 1 位 | 新出 悠介(1) | 78'12" |
| ・女子優勝 | 飯田 夏生(2) | 74'18" | ・マネージャー | 大槻 あすみ(4) | 102'39" |
| ・短距離 1 位 | 津嶋 優希(3) | 74'29" | ・9km の部 | 根津 勇介(3) | 31'43" |
| ・跳躍 1 位 | 嶺岸 雄太(2) | 77'50" | ・4km の部 | 米山 知里(3) | 21'53" |

参加されたOB・OG(敬称略)

石井 孝 (S39)、菅原 質 (S42)、佐藤 健二 (S52)、真山 隆徳 (S56)、彦坂 幸毅 (H2)、吉田 真人 (H9)

◎自己ベスト更新者(9/22～11/15)

- | | | | | | |
|-----------|-------------|-------|------------|----------|---------|
| ・男子 200m | | | ・男子 10000m | | |
| 藤井 大輝(2) | 23"16(-1.1) | (個人戦) | 熊谷 駿(4) | 33'21"21 | (個人戦) |
| ・男子 800m | | | 西井 大樹(M2) | 33'52"77 | (個人戦) |
| 松田 将大(2) | 1'57"71 | (個人戦) | ・男子ハンマー投げ | | |
| ・男子 5000m | | | 新出 悠介(1) | 21m38 | (個人戦) |
| 南雲 信之介(5) | 15'21"81 | (個人戦) | ・ハーフマラソン | | |
| 熊谷 駿(4) | 16'01"06 | (個人戦) | 西條 詩織(4) | 97'28" | (松島ハーフ) |

◎今後の予定

- | | | |
|-----------|-------|-----------------------|
| ・12月4日(日) | 三秀総会 | ビアレストラン新宿ライオン会館7F(東京) |
| ・3月 | 卒業祝賀会 | 東北大学(仙台) |
| ・3月 | 春合宿 | |

◎編集後記

全日本大学駅伝や秋の記録会シーズンが終わり、冬季練習の時期になってきました。冬季に地道な練習を積み重ねることが来シーズンの活躍のために重要だと考えられます。しっかり目標を持ち、怪我に気を付けながら、部員一同冬季練習に励んでまいりますので、今後とも応援よろしくお願ひします。

文責 副務 阿部春花

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp